

■□要旨■□

1. 仕事のモチベーション

サラリーマン時代も今も「日本の企業を手助けする仕事がしたい」という、仕事をする上での動機は変わらない。

2. 課長とは

日本企業は課長でもっている。

課長は「監督兼エース兼四番兼二軍監督」・・・監督(部下を束ねる)、エース兼四番(数字をあげる)、二軍監督(部下を育てる)。

課長時代はできる限りリスクをとって、できるかぎり背伸びをするべき。自分の発言=会社の発言。自分の言ったことには責任をとる。課長でも会社は動かせる。常に能動的にチャレンジ。

3. 会社の危機を乗り越え、三行合併後の大組織の役員に

興銀を含め三行あった長信銀が相次ぎ破たん。次は自分達という危機に。課長時代に他社との業務提携の絵を描き、頭取に直訴。結果、常務会の議題となり、提携実現。会社を動かしている実感。その後はみずほ時代には三行合併による、文化の違い、言葉(社内言語)の違いで苦労したが、全ての面で公平さ(フェア)を常に意識し、組織を統率。ただ、大組織を率いるには絶対的なパワー、執着心、白兵戦での強さが必要。

4. 会社での自己実現のために

やりたい仕事をするには地位と権限が必要。そのためには妥協・派閥・ゴマスリなども必要に。日本では出世が遅すぎるのが問題。情熱を継続させるのに相当なパワーが必要になり燃え尽きてしまう。すごい課長が普通になる一因か？ただし出世が「自己実現のための手段」なのか「目的」なのかをしっかりと意識することが重要。

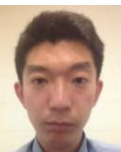
5. リーダーシップとは

①決断できること、責任がとれること。②プロデュースができること。③人間力があること。

リーダーは空気を読めない奴。自分の意見をしっかりと持つことが大事。リーダーシップは場数を踏むことで育成されるのでは。どんな状況でも初めてではない状況を作ることが必要。また部下にやらせてみる、失敗したときにはきちんと責任をとる。任せる勇気も大事。

■□今回の学び ひとつでいうと■□

課長時代が一番リスクをとってチャレンジできる。目一杯背伸びすべき。いつやるの？今でしょ！



■□感想■□「経営者じゃないと人じゃない！みたいなことを言う人もいるが、サラリーマンは大変な仕事で、誇れるものだ！」と最初におっしゃったのが印象的でした。その言葉は、サラリーマン道をきちんと極めたからこそその発言。20年後の自分がどうなっているか想像は尽きませんが、自分がやってきた仕事を他人に誇れるようになっていたい！そう強く思いました。